

報告

カナダ園芸療法研修記

Report on Hortitherapy Study in Canada

佐竹 勝*、長辻 永喜

要旨：当大学カリキュラムの特徴の一つに園芸療法という科目がある。理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の国家資格に加えて園芸療法士の認定資格が得られるという魅力もあってか、初年度にもかかわらず定員枠の50名を大幅に越す人気講座となっている。

超人気のこの園芸療法、歴史的にみれば1900年の初頭より精神科領域において永年にわたり作業療法の一つ目（農耕・園芸）として活用されてきた。都市化が進むにつれ、一定の土地確保が困難となり、実施する施設は減ったものの、今なお多くの病院・施設で利用されている作業種目である。近年の急激な高齢社会は、深刻な認知症問題を抱える事となり、増え続ける認知症に対しいかに歯止めをかけるかが急務となってきている。この課題の切り札として園芸療法が脚光を浴びるようになり、老人保健施設など福祉領域において、作業療法士に加えて園芸療法士の指導による活用の広まりが見られてきている。

園芸療法の目的は、土を耕し、種を蒔き、花や植物を育て収穫するまでの一連の園芸活動や役割から生み出される“癒し効果”を心や身体のリハビリテーションに役立てることにある。特に作業療法学専攻においては基礎作業学として重要な位置づけと捉えている。

この度、開学初年度にもかかわらず、この園芸療法を主眼とした海外研修プログラムが実現したのでその研修概要について報告する。今後は、継続の行事として定着させ、園芸療法の学問的発展と、建学の精神である「豊かな人間性」育成に寄与していきたい。

Key words：作業療法, 園芸療法, ガーデニング

カナダのインネーブルガーデンを求めて

事前視察

期日：2006.6.19～6.24

行先：バンクーバー、ビクトリア

目的：事前視察の目的は、研修先の選定と、現地までの交通ルート、及び安全性を確認することであった。筆者一人では偏りが生じるため、客観的な視点をもって参加できる人材の必要性

を感じ、急遽同じ作業療法学専攻の長辻永喜氏から賛同と同行の意を得て、2006年6月19日から6月24日の6日間、プライベートな立場で、バンクーバーとビクトリアを訪ねた。行先は、バンクーバーを基点とし、園芸療法の視点から施設・場所を探した。訪れた施設・場所とその内容については、長辻永喜氏の見聞記を以下に掲載させていただいた。

カナダ視察旅行記

ガーデニング in バンクーバー (06/6/19～6/24)

6/19：出発15：50 関西国際空港発 バンクー

*Masaru Satake
大阪河崎リハビリテーション大学
リハビリテーション学部 作業療法学専攻
E-mail: satakem@kawasakigakuen.ac.jp

パー行きエアーカナダ便で約8時間の飛行を経てようやくたどり着いた。時間の感覚がおかしい。夕方の3時過ぎに出たのに着いたのはその日の朝9時半。これが時差ということを実感に感じた瞬間である。通常ならば夜中の24時。眠さを感じながらも入国審査・税関審査を経て手配の車で市内へと向かう。

◆ まず初めに訪れたのがクイーンエリザベス公園 (Queen Elizabeth Park)。カナダ最初の市民植物園として開設された標高152mのリトル・マウンテンに広がる公園。水仙、コブシ、桜、チューリップなど、季節の花々が咲き誇る。一番人気が高いのは、かつての石切り場だった採石跡を整備したサンクン・ガーデン (沈床庭園)。リトル・マウンテンの頂上には、円形ドームのブローデル温室がある。高台から眺める庭園の全景や、バンクーバー市内の眺望は素晴らしい。

◆ その次に訪れたのがカナダ最大の都市公園、スタンレー公園 (Stanley Park)。ダウンタウンの北西にある405haの広大な公園。入り江に突き出した岬全体が、深い森に覆われた自然公園になっている。湖や川、原生林などがパーク内にあり、カナダグースなどの野鳥やリスなどの小動物も生息。バラを中心にした花壇、石楠花の小道など、花の季節にはいっそう鮮やかな風景となる。7本のトーテムポールが建つ広場や、公園の北端に位置するプロスペクト・ポイント (Prospect Point) は写真撮影に人気の場所。プロスペクト・ポイントからは、ライオンズ・ゲート・ブリッジを望むことができる。海沿いに公園を一周している約10kmのシーウォール (Seawall) で、サイクリングや散歩をする人も多い。森の中へのハイキングも楽しめるようになっている。公園の西端、イングリッシュベイに面したエリアには、眺めの良いレストランなどもある。

◆ ウェッジウッドホテル泊。落ち着いたある

ヨーロッパのホテルでゆっくりと休息を取るつもりがなかなか時差の関係で寝付けなかった。

6/20: 2日目 朝からバスに乗りビクトリア島にフェリーで渡る。今回のメインメニューであるブッチャートガーデン (The Butchart Gardens) の見学。

◆ ブッチャートガーデン: ダウンタウンの北約21kmにある。ビクトリアを代表する観光スポットで、1年を通じてさまざまな花やアレンジが楽しめる。20世紀初頭にセメント王といわれたロバート・ブッチャート氏の妻であるジュニーが、自宅の近くにあった石灰岩の石切り場の採掘跡を庭園にしたのが始まり。庭園を眺めながら、優雅なアフタヌーンティーやレストランでの食事を楽しむ。バラ園、イタリア風・日本風庭園など各国の庭園も整備され、四季を通していろいろな色とりどりの美しい花々が咲き誇っている。この時期は最も花の多いベストシーズンだ。

◆ ダウンタウンビクトリア: ビクトリア郊外の高級住宅街。美観を維持するために地域の開発制限を行っており、人口も30年前からほぼ変わりなく、1万8000人~1万9000人ほどで推移。趣向を凝らした家々、手入れが行き届いた庭園、ビーチ、公園などが、美しい街並みを作り出している。

州議事堂 (Legislative Buildings) は、青銅のドーム型屋根を持つ重厚ロマネスク様式の建物。夜にはイルミネーションで彩られ、幻想的な雰囲気をかもし出す。

すぐ近くのフェアモント・エンプレス・ホテル (The Fairmont Empress Hotel) は古城風の外観にツタが絡まるビクトリアを代表する最高級ホテル。観光名所としても名高くしているもうひとつの理由は本格的な英国式のアフタヌーンティー (8時の夕食を待ちきれずにお茶・サンドイッチ・ケーキをたしなむ習慣がはじま

ったとされる)。1階ロビーのティールームで優雅なひと時を過ごすことができる。目の前のインナーハーバー (inner harbour) の美しさは圧巻である。

6/21：3日目は吊橋で有名な キャピラノ渓谷 (Capilano Canyon) へ。

◆ キャピラノ渓谷は、高さ70m、長さ137mのつり橋が掛かっている。つり橋の中ほど辺りからの景色は素晴らしく、スリルも満点。つり橋を渡りきったところにトレイルが整備されており、森林浴をしながらハイキングが楽しめる。レインフォレストの水の音を聴きながら深呼吸すれば、広大な自然に心も癒される。スコームッシュ族の一部族であるキャピラノ族が作ったトーテムポールと、ロングハウス内でトーテムポールの彫刻制作風景なども見られる。

◆ その後、車を走らせブリティッシュ・コロンビア大学 (UBC) に向かう。人類学博物館 (Museum of Anthropology at UBC) は、州立ブリティッシュ・コロンビア大学のキャンパス内にある博物館。先住民族文化に関するコレクションで名高く、なかでも先住民彫刻家を代表するビル・リードのコレクションでは世界最大といわれている。建物自体もカナダの有名な建築家、アーサー・エリクソンによるもので、ノースウエスト・コーストの伝統的な住宅の柱と梁を思わせるような印象。学術的にも芸術的にも、貴重なコレクションが多い。太平洋岸全域から集められたくり船、トーテムポール、ハウスポスト、ベントウッド・ボックス、チーフが儀式の時に着たブランケット、日本を含む世界中から集められた民俗資料などが展示されている。その周囲を取り巻くように配置されたブリティッシュ・コロンビア大学 (the university of british Columbia UBC) の広さには驚かされる。1915年にカナダ最大規模として生まれた大学で、日本庭園・ゴルフ場・遊歩道・バラ園など

が周囲に配置され、とりわけ日本人になじみの深い新渡戸庭園もこの地にある。新渡戸稲造は日本とカナダの架け橋となった人物である。

6/22：4日目 バン・デューセン植物園 (Van Dusen Botanical Garden) へ。

◆ バン・デューセン植物園は、北米の代表的な園芸専門誌『ホリティカルチャー』でも取り上げられた植物園の1つ。バンクーバー市内のほぼ中央に広がり、22haの敷地内には7500種以上の植物が集まっている。鮮やかな黄色が印象的なラバーナムの小道、早春の木蓮、春の盛りを彩る石楠花、珍しいブルーポピーなど、四季折々の美しさが楽しめる。60種以上の野鳥も見られ、バードウォッチャーにも人気が高い。本格的なガーデニング講座やハンギング・バスケットレッスン、ハーブ教室など、各種講習会も開催されている。

◆ 最後の夜を過ごすべく カナダプレイス (Canada Place) へ。ここは、1986年に開催されたバンクーバー万博のカナダ館をそのまま利用したコンベンション&トレードセンター。5つの帆を持つデザインで、バンクーバーのシンボルになっている。大型クルーズ船も着岸するマリナーやホテル、レストランを併設。5階建てビルサイズに匹敵するスクリーンで、迫力満点の映像が楽しめるアイマックスシアターもある。

そのすぐ近くにガスタウン (Gas town) がある。バンクーバー発祥の地。石畳の道路やアンティークな雰囲気のある街灯が、当時の様子を偲ばせる。カフェ、アンティークショップ、ギャラリーなどが立ち並ぶ。蒸気パイプのホイッスルで時を知らせる蒸気時計は、写真撮影の人気スポットである。バンクーバー市内を一望できる展望レストランでの夕食は極め付けであった。

6/23：5日目 カナダ最終日。今日は帰路に着かねばならない。あっという間の6日間であった。11：30発、関西国際空港行き。今度は時差を大幅に進行する。着いたのがあくる日6/24の



ブッチャードガーデン

14：20であった。時間を損じた気分であった。

◆ まとめ

全体を振り返って急な出発となり関係各位にはご迷惑をかけたが、短期間で十分にカナダを満喫できる視察であった。特に「We're Accessible (障害者向け旅行会報)」で、バンクーバーは、世界で最も障害者に優しい都市に選ばれており、障害者用に交差点などに設けられた歩道の車椅子用スロープは1万4千を越え、公共交通機関(バス、スカイトレイン、シーバス)の車両にも車椅子アクセスがある。障害者に優しい町を実感できた。日本と同じく治安もよく、学生を引率するには打ってつけの場所である。園芸療法との関連も十分に学習することができると感じた。この時期は午後9時過ぎまで明るく、白夜は感動的だった。

【長辻 永喜 記】

カルガリーからの朗報

バンクーバーでの視察もあと1日を残すのみとなった帰国直前、滞在していたウエッジウッドホテルの部屋に2通のファックス便が届いていた。その内容は、2通とも我々の施設訪問を

歓迎するというもので、カルガリーにあるファニング医療センターとバルカン老人保健施設からのものだった。この情報は、南カルガリー医療福祉センターで作業療法士として働く壁谷喜代子氏からもたらされたものである。

以下にファックス原文内容を転載した。

【カルガリー：ファニング医療センターからのファックス】

Shelley Rutledge, Rec T. and I run a horticulture program on Wednesday mornings on the Carewest Neuro Rehab unit. We would be happy to have Kiyoko bring Mr. Satake and his OT students to observe one of our groups. We meet Wednesday morning at 9:30 and finish between 10:30 and 11:00. We have a varying number of clients in attendance each week and the clients, of course, have varying levels of both interest and ability. Please call in advance of your visit as both Shelley and I work part time. We can be reached at 520-6717.

Patty Rhodes-Brink
Recreation Therapist
Carewest Neuro Rehab unit
520-6717

【バルカン地域健康福祉センターからのファックス】

The Valcan Community Health Centre LTC it is a small rural facility. We have tried to develop a senior friendly outdoor area over the past 10 years. Our facility has 15 LTC residents, a palliative Care bed & 8 acute. We developed our garden with individual freedom in mind a most of our residents come from rural background and the outdoors were a huge part of their lives. We run a

Horticulture Therapy program weekly in the garden & incorporate the outdoor space into our other programs as much as possible while the sun is shining. Mr. Satake & his students are more than welcome to visit our facility.

If you need more information the key contact is sherri Gooch 403.485.3307

壁谷喜代子氏の紹介

壁谷氏は、国立東名古屋リハビリテーション学院を卒業後、中部労災病院に就職、その後、カナダ州立アルバータ大学作業療法学科に入学、卒業後は地元カルガリーの医療センターに作業療法士として就職。筆者のカナダ研修計画を聞き及んで、情報を集めてくれた。

計画直前にもたらされたこの情報は、海外研修実現への大きな弾みとなった。

園芸療法研修記 in カナダ

◆ 研修年月日：2006年9月12日（火）～ 9月19日（火）

◆ 研修地：カルガリー、バンクーバー

◆ 研修目的

- (1) 先進国カナダの取組みを見聞・体験し園芸療法の知識と理解を深める
- (2) 現地での相互交流を通して国際感覚を身につける
- (3) 風俗や習慣、生活に触れることで異文化への理解を深め、国際人としての資質を育む
- (4) 夏休みの有効利用

◆ 参加者：5名

佐竹 勝（作業療法学専攻教員）

岸上雅彦（作業療法学専攻教員）

小林まき子（園芸療法士：非常勤講師）

井上英論（学生） 原 加与（学生）

1.1 日目

1-1 日時：2006.9.12（火）

1-2 目的地：カルガリー

1-3 研修先の様子・印象

関西国際空港から飛行機で8時間。カナダの西の玄関口であるバンクーバー国際空港に到着した。日本とバンクーバーの時差は-17時間。現地時間は、出発した12日の正午であり、1日得したような気分だが、睡眠不足状態で、体も頭もボウ～としている。いわゆる時差ぼけである。着陸直前に、飛行機の窓から見え隠れするバンクーバーは、緑豊かな自然に囲まれた美しい街であった。この街での楽しみは4日後に残し、最初の目的地であるカルガリーに向かうべく、入国審査を済ませ、国内線に乗り換えて、カルガリー国際空港に着いたのは、夜の9時過ぎであった。

今回の研修旅行の橋渡し役を引き受けていただいた、カルガリー在住のKabeya夫妻の出迎えの車と、もう一台のレンタカーに分乗して、カルガリー市内のホテルに着いたのは夜の10時ごろ。遅い夕食を近くのパブ（深夜バー）で済ませ、ベッドに就いたのは12時過ぎであった。疲労と時差ぼけ、見慣れぬ外国にきたという緊張と興奮状態が入り混って、なかなか寝つけられなかった。

2.2 日目 AM

2-1 日時：9.13（水）

2-2 目的地：ファニング医療センター

2-3 研修先の様子・印象

天候は小雨、周辺の街路樹はすでに紅葉が始まっており、服装は真夏から一挙に冬服装に衣替えしての訪問となった。時差ぼけと睡眠不足で、頭も身体もシャキッとしないまま最初の研修先であるファニング医療センターへ向かう。

初めて訪れたカルガリーの街。地下鉄、列車はなく、移動はすべて車である。どこをどう走

◆行程表

カナダ研修プログラム《行程表》

日程	月日 (曜)	目的地	現地 時間	交通 機関	研 修 先
1	9月12日 (火)	関西空港集合 関西空港発	15:50 17:50	AC040	関西空港4階集合 出国手続き後、空路バンクーバーへ 〈途中日付変更線通過〉
		バンクーバー着 バンクーバー乗継 カルガリー着	11:25 14:00 16:20	AC212 車	空路、カルガリーへ 着後、Kabeya氏の車でカルガリーへ ホテルチェックイン 【カルガリー泊】
2	9月13日 (水)	カルガリー滞在		車	午前：ファニング医療センター研修 午後：南カルガリー健康福祉センター見学 【カルガリー泊】
3	9月14日 (木)	カルガリー発 バンフ		車	午前：バルカン地域健康福祉センター研修 午後：バンフへ移動 【バンフ泊】
4	9月15日 (金)	カナディアンロッキー		車	終日：世界遺産カナディアンロッキー観光 午前：レイクルイーズ 午後：モレーンレイク 【バンフ泊】
5	9月16日 (土)	バンフ発 カルガリー空港発 バンクーバー空港着	07:00 12:00 12:25	車 AC185 車	午前：カルガリー空港へ 午後：空路、バンクーバーへ 着後、バンクーバー市内へ ○グランビルアイランド視察 ○スタンレーパーク視察 【バンクーバー泊】
6	9月17日 (日)	バンクーバー滞在		車	終日研修 午前：ニトベガーデン、UBCローズガーデン 午後：バンデューセン植物園 クイーンエリザベス公園 【バンクーバー泊】
7	9月18日 (月)	ホテル発 バンクーバー発	09:30 13:30	車 AC039	チェックアウト後、バンクーバー空港へ 空路、大阪へ 〈途中日付変更線通過〉 【機中泊】
8	9月19日 (火)	関西空港着	16:20		着後、入国手続きの後、解散

*利用航空会社：エア・カナダ (AC)

*利用ホテル：カルガリー…ウインゲートインカルガリー 888-254-0637
 バンフ①…スイスビレッジロッジ 403-762-4581
 バンフ②…ボヤジャーイン 403-762-3301
 バンクーバー…エンパイアランドマークH 604-687-0511

っているのか、自分の位置関係も分からないままに目的地のファニング医療センターに到着。そのまま急性期脳神経外科病棟へ。案内された病棟の一角の部屋にはすでに5人の患者さんが一つの大きなテーブルを囲んで坐っておられ、担当の園芸療法士2名と共に、園芸療法が始められようとしていた。担当セラピストから我々の紹介があり、我々も園芸療法に参加する事になった。作業内容は「挿し芽」。小さなポットに土を入れて、カットされた植物の葉と茎の芽を土に差し込むという簡単な作業である。健康な私たちから見れば何の問題もないこの一連の動きも、参加している患者さんにとっては大変な作業である。麻痺のある人には、土が入っているテーブルの上のバケツの高さまで腕を挙げ、中の土をすくうことは大きな苦痛を伴うものであるが、ここでは、土がすくい易いようにバケツの側面が丸くくり抜かれていた。また、左半側空間無視の車椅子患者さんには、「挿し芽」した10数個のポットへの水やりにも、セラピストが話しかけながら、ポットをゆっくり移動させつつ、無視側に対する注意を促すなど、患者の障害に応じた細かな配慮が見られた。

担当のPatty氏によれば、ここで育てられた苗や種はバザーで販売され、売上金はレクリエーションや次の園芸作業の道具を買う費用に充てられている。園芸に対する患者さんのニーズは高く、歴史的に見てカナダの生活に根付いている。国の基準はないが、カナダでは多くの施設が取り入れている。ここは病棟の一角だが、園芸療法専用のグリーンハウスを有しており、現在改修中との説明であった。

学生は我々の紹介が終わると同時に患者さんの間に入り込み、一緒に「挿し芽」作業に参加。まだ教えたわけでもないのに膝を落とし、目線を合わせて自己紹介。使える言葉を引っ張り出し、身振り手振りを交えて積極的に意思疎通を図る姿勢が強く印象に残った。その為か、グル

ープ全体が徐々に活気付き、話し声や笑い声が絶え間なく、あっという間の一時間であった。大学ではまだ行っていないが、学生にとっては値千金に匹敵する貴重な臨床実習となり、併せて実用的な英会話の時間となった。最後に担当セラピストのPatty氏から“今日の患者さんは、全員表情がよく、会話量も笑顔も普段より多くみられた・・”とのコメントを受けてファニング医療センターを後にした。

急性期リハビリテーション病棟において園芸療法の見学と実践を体験した。この国では、園芸はなくてはならない療法の一つであることが理解できた。また、清潔さを求められる病院内で、直接土に触れることが出来るカナダの文化に驚かされたが、研修初日より英語のシャワーをものともせず、積極的に患者さんとコミュニケーションをとる学生の姿に、研修成果200%を実感するスタートとなった。



ファニング医療センター

3.2日目 PM

3-1 日時：2006.9.13（水）

3-2 目的地：南カルガリー医療福祉センター

3-3 研修先の様子・印象

◆施設見学：主としてリハビリテーション部門を見学。理学療法室、作業療法室は日本でも見られる構造と設備品であり、特別目新しいものは見られなかった。特色としては、各自が個別の相談室兼評価、治療室を持っていたことである。その各PT・OT・STやソーシャルワーカー、秘書室が同一床面上に配置されており、リハビリテーションに必要なチームワーク（横のつながり）がとりやすい施設造りが印象に残った。

◆作業療法士による治療場面の見学

患者は、車椅子使用の右不全麻痺

治療内容は、

- ①W/C ⇔ 治療台トランスファー（要監視
－部分介助）
- ②治療台に腰かけ、右上肢を伸展位のまま右側につき、OT助手が右手関節と肘関節を両手で固定。左下肢はキャスター付の足置き台に。
- ③セラピストは患者の左側に立ち、手に持った三角錐を、左手を伸ばして掴みとらせる。……というもので、治療法はポバーステクニク。

学生に治療内容を質問したところ、しばらく観察してから、“右上肢の改善もあるが、三角錐を掴み取ろうとすることで、全身のバランス感覚を刺激している……”との回答、答えはgoodである。まだ基礎教養科目の履修中で、リハビリテーションの知識や専門科目には進んでいないにもかかわらず、的を得た回答に満足させられた一日であった。

しかしながら、患者さんの了解を得ているとはいえ、我々外国人が見ている前での治療行為。普通なら拒否されても不思議ではない。その寛容さに驚かされると共に、学生にとっては、生きた教育経験の場となったことは確かであり、実り多き一日であった。

4.3 日目 AM

4-1 日時：2006.9.14（木）

4-2 目的地：バルカン地域医療福祉センター

4-3 研修先の様子・印象

◆施設見学：朝8時、2台の車に分乗して出発。天候は冷雨、緊張感のせいかな寒さはあまり感じない。山岳部は雪のニュース。目的地は、カルガリーから約100kmほど離れた、小さな町の病院に併設された老人保健施設。カルガリー市街を抜けると一面の大平原、周りをさえぎる家並みや山もなく、広大な牧場と畑ばかりが延々と果てしなく続く。道路は真っ直ぐの一本道で対向車もほとんどない。車を運転するkabeya OTRのご主人Todd氏の手はほとんど動かない。車のスピードは常に時速100kmを超えており、もし車に翼が付いていればそのまま離陸できそうだ。小型のセスナ機やジェット戦闘機も十分に離発着できる。もしここで車が故障でもしたらどこに助けを求めたらいいのだろうか……、という一抹の不安と心配を抱きつつバルカン地域医療福祉センターに着いた。

迎えてくれたのは、Sherri Gooch Recreation Therapist。案内された病棟ロビーには、スタッフや患者さんとその家族が焼いた手造りのクッキーと温かい紅茶が用意され、遠来の我々を暖かく迎えてくれた。茶菓をいただきながら、相互に自己紹介、施設の概要説明を受けたあと、実際のガーデンを見せていただいた。園芸療法施設は病院設立プランと並行して、園芸療法士や入所している患者さんとその家族、ボランティアの協力により10年がかりで完成させた自慢の手造りガーデンである。当日の天候は小雨模様、内は暖かいが外は寒い！。ガーデン内に設置された大きな温度計をみると気温6℃。大阪の冬の気温にふるえあがった。この国の芝生は冬でも青い。庭内には休憩用ベンチ、東屋風の休憩所が設置されている。他にも車椅子でも十分な幅広の散歩道や、車椅子でも実施できる園

芸コーナー、レイズドベッド、自分用の菜園コーナーもあった。全体の広さは、私達大学第1イネーブルガーデンの約4～5倍はありかなり広い。9月のカナダは秋本番、草花はすでに色あせていたが、庭園は病棟の周囲に配置されているため、天気の良い日は気軽に散歩に利用できる。花の盛りは5月頃から7月まで、その間は戸外での活動が主となるが、園芸療法は春、夏、秋、冬と一年を通して行なわれているという。

カナダの老人施設は必ずボランティアや地域の人がかかわっている。植物の交換や植替え、キャンプやバザー、ファッションショーをやることもある。ここでやる事、やりたい事は地域の人と入所している人達が話し合っていて決めている。いろいろな工夫がある。この施設でも多くのボランティアが入っており、これらの人がいないと運営していけない。この街の人口は約2,000人。老人施設への入所の希望をとると、



バルカン老人保健施設

ここはいつもナンバーワンの人気施設で、そのまま居ついてしまう人がいる。現在、認知症の人は入っていない。との説明であった。

バルカンには10:20～12:50頃まで約2時間30分の滞在であった。学生達には、昨日に引き続いての施設見学、しかも見るもの聞くもの全てが新鮮で物珍しいものばかり。強く脳裏に焼き付いた事と思う。「来年もまた来て下さい」
Have a Nice trip. Good-bye. See you again.の見送りを受けて雪降りしきるバンフに向かった。

5.3日目 PM

- 5-1 日時：2006.9.14 (木)
- 5-2 目的地：バンフ国立公園
- 5-3 研修先の様子・印象

◆世界遺産：カナディアンロッキー（バンフ）へ向かう

世界自然遺産に登録されているカナディアンロッキーは、アルバータ州の西側、ブリティッシュ・コロンビア州との州境に沿って北米大陸を南北に縦断する標高3000m級の急峻な山々をさす。万年雪や広大な氷河を頂く雄大で険しい山々、裾野に広がる針葉樹の森には、日によって、時間によって刻々と湖面の色を変える神秘的な湖が多く点在している。厳しい自然はまた多くの野生動物たちの楽園となっており、時折りハイウェイ近くまで姿を見せることがある。夏の観光シーズンは6月から8月まで、9月に入れば紅葉が始まり、すぐ雪がちらつき始める。この短い夏場に世界中から観光客が集まってくる。

我々が向かったバンフ国立公園は、1885年に指定されたカナダ最古の国立公園。その中心にあるバンフの町は四方を3000m級の急峻な峰々に囲まれた人口5000人ほどの小さな町である。このバンフを中心に、レイクルイーズ、モレー

ンレイク、ペイトーレイクなどの美しい湖や山々が数多く存在するカナディアンロッキー最大の観光拠点である。

このバンフを目指し、バルカンから一旦カルガリーに戻り、国道1号線（トランスカナダ・ハイウェイ）を西に向かう。20分程走ると、カルガリーでちらついていた小雪が本格的な雪に変わり9月だというのにあたり一面雪景色、夏から一気に冬モードとなり寒さに震えた。2時間かけて着いたバンフは雪の中。季節はずれの雪が幸いしてか、風景すべてが絵ハガキのように美しい。幻想的なカナダの大自然をダイレクトに味わうこととなった。

◆雪降るカナダで温泉！？

夕食を済ませた後、雪降るバンフの街をショッピング。市街の中心はアウトドアグッズの店やレストラン、ホテル、土産物店、などが軒を連ねるバンフアベニュー。先住民の文化を展示した博物館や大自然のアートを紹介した文化施設もみられた。冷えた体を暖めるには温泉が一番と、向かった先は市街から3kmほど離れたサルファー山の山麓にあるUpper Hot Springs。温泉とはいえ、日本と違って水着着用で入る屋外プールで、水着のない人にはレンタルも用意されていた。我々もレンタル水着に着替えて入湯。プールは屋外にあり、裸で酷寒の外に出るには勇気がいった。昼間であれば、ロッキーの雄大な景色を眺めながらの露天風呂であろうが、この日はあいにくの真っ暗闇、しかも空からはものすごい降雪で頭の雪を払いのけながらのカナダ温泉であった。まわりをみると雪の中にもかかわらず老若男女さまざまな人がおしゃべりしながら温泉を楽しんでいる姿が見られた。温泉好きは日本人だけではなく世界共通のものとなった。1884年に発見された硫黄泉質の天然温泉。最初熱く感じたが入ってしまうとジンワリと効いてきた。ホテルに帰った後もホ

コホコ感が大変心地良く、研修の疲れを癒してくれたUpper Hot Springsであった。

6.4日目 AM、PM

6-1 日時：2006.9.15（金）

6-2 目的地：レイクルイーズ&モレーンレイク

6-3 研修先の様子・印象

レイクルイーズは、バンフから国道1号線（トランスカナダ・ハイウェイ）を西に1時間ほどで行ける。神秘的な青緑色をした湖水とその向こうにそびえる標高3464mのビクトリア山、その山肌から裾野に広がるビクトリア氷河。溶け出した水が湖に流れ込み、明るいエメラルド・グリーンに輝やく湖水と、そこに写るビクトリア大氷河のコントラストはまるで一枚の絵のような美しさである。かつてのビクトリア女王の娘ルイーズにちなんで名づけられたこの湖は、ロッキーの宝石と讃えられ、カナディアンロッキーの象徴として知られている。訪れた日はまだ前日の雪が残っており観光客はまばらであったが、周りの風景と白雪のコントラストがマッチして、みごとな風情を呈していた。

モレーンレイクは、レイクルイーズの南方約10km、時間にして20分ほどの距離にある。道路標識に沿って曲がりくねった道を上っていくと深みがかかったブルー色の湖面が見えてきた。湖を背後から屏風のようにぐるりと囲むようにしてそびえ立つ山々はテンピークスと呼ばれる岩



モレーン湖

峰群、大迫力で目の前に立ち塞がる姿は圧巻そのもので、地球創造を想起させる。湖は、太陽が昇るにつれ刻々と湖面の色を変えていく。実に神秘的である。

7.5日目 AM、PM

7-1 日時：2006.9.16（土）

7-2 目的地：バンクーバーへ移動

7-3 研修先の様子・印象

バンフを朝7時に出発、カルガリー空港に向かう。

カルガリー空港発（12：00）

バンクーバー空港着（13：30）

バンクーバー市内観光

【バンクーバー】カナダ西海岸最大の都市であるバンクーバーは人口約180万人。トロント、モントリオールに次いでカナダ第3の大都市である。日本からは、成田、名古屋、大阪（関空）から直行便が運行されており、8～9時間で行くことができる。青い空に雄大な山々、紺碧の海にひととき映える近代的な高層ビル群。自然と大都市がうまく調和したバンクーバーは、高緯度にもかかわらず温暖な気候に恵まれ、世界で最も住みやすく、安全で快適な街ともいわれている。街中に目を向ければ、ユニバーサルデザインも多く見られ、障害者や高齢者に優しい街造りがあちこちに点在する。市内にはスタンレーパーク、クイーンエリザベス公園など緑豊



バンクーバー

かな公園が多く、日本からの観光客も多く見られる国際観光都市である。

【スタンレーパーク】バンクーバーの中心街の北西側、バラード湾に突き出た半島の全体がスタンレーパーク。公園全体が深い森に覆われた自然公園。405haの広大な敷地には手つかずの原生林や湖が広がり、カナダグースなどの野鳥やリス、アライグマが姿を見せる。公園内には遊歩道とともに、一周約10kmのサイクリングロードやインラインスケートの専用コース、テニスが整備されており、歩く人、ジョギングをする人、スケートを楽しむ人、それぞれ安心して汗を流せるなど市民憩いの場となっている。見どころは、先住民が造った8体のトーテムポールや、迫力あるシャチのショーが行なわれているカナダ最大のバンクーバー水族館など…。多くの市民や観光客が集まるバンクーバー最大の観光スポットである。



スタンレーパーク

8.6日目 AM、PM

8-1 日時：2006.9.17（日）

8-2 目的地：①ニトバガーデン

②バンデユウセン植物公園

③クイーンエリザベス公園

8-3 研修先の様子・印象

【ニトバガーデン】広大な州立ブリティッシュ・コロンビア大学構内の閑静な一角にある新渡戸庭園。1933年、バンフで行なわれた国際会

議の帰途、ビクトリアで客死した新渡戸稲造博士を偲んで造られた本格的な日本庭園である。落ち着いた佇まいの庭の中心には池が配され、緋鯉や真鯉が時を忘れたかのようにゆったりと泳いでいる。散策道のそばに「願わくば、我太平洋の架け橋とならん」と刻まれた新渡戸博士の石碑。さらに見渡せば、深い木立の中に石灯籠や茶室、東屋が配され、異国にみる日本庭園の美しさ、素晴らしさを感じさせられ、旅の疲れが癒された一時でもあった。

【バンデユウセン植物公園】バンクーバー市内のほぼ中央に位置する閑静な植物園。22haの広大な敷地内には6大陸から7,500種以上の植物が集められているという。周遊道を1周すると熱帯を除く世界中の植物を見ることが出来る。じっくりと観るには一日かかるが、当日はあいにくの雨模様。残念ながら全体の1/3を駆け足の視察に終わったが、園芸療法を志す者には必見の施設である。



バンデューセン植物公園

【クイーンエリザベス公園】バンクーバー市内のほぼ中央、市街を見下ろす小高い丘に位置する。広さ53ha、広大で美しい公園は四季折々の花で埋めつくされていた。高台から眺める庭園の全景や、バンクーバー市街の眺望がすばらしい。時々結婚式後の写真撮影が行なわれるなど本当にきれいな公園である。かつては荒涼とした石切り場だった小山が、今では身近な市民

の憩いの場として、また市内有数の観光スポットとして人が絶えることがない。自然環境をうまく利用したガーデン造りは参考に値する。

9.7日目 AM、PM

9-1 日時：2006.9.18（月）

9-2 AM：09：30 ホテル出発 帰国の途へ
PM：13：30 バンクーバー空港発 エアカナダ39便

10. 8日目

PM：16：20 関西国際空港着
入国手続き後、解散

◆研修のアンケート — 内容と結果 —

帰国して三週間後、後期授業がスタートした。研修の熱も鎮まった頃と判断し、参加した学生と職員に、簡単なアンケートに答えていただいた。

1. 今回の研修で印象に残った施設や場所を挙げて下さい。
 - ①ファニング医療センター
 - ②南カルガリー医療福祉センター
 - ②バルカン地域健康福祉センター
 - ④カナディアンロッキーの湖
2. 今回の研修で一番勉強になった項目を挙げて下さい。
 - ①訪問した各施設における、「患者の自立」に向けた実践的取組み
 - ②園芸療法の利点
3. 今回の研修で不必要、あるいは改善したほうが良いと思われたものは何ですか。
 - ①実際の園芸療法をもっと多く見学したかった
 - ②研修先の数をもっと増やしてほしい

4. 次回のプログラムに付け加えたら良いと思われるものがあれば挙げて下さい

①その日に学んだことを話しあう時間が有るといい。

5. 経験を通して次回参加する学生に望むことがあれば記入して下さい

①出発する20日前ぐらいから「基礎英語」みたいなものを聴き、耳を慣らすことが大切。

②常になにかを学ぼうとする姿勢があれば成果が上がる

◆研修を終えて

1. 成果

現地で見られた学生の積極的な行動や帰国後の感想文を見る限り、主観的ではあるが教育成果はあったと推測している。すでに学校生活の中にも僅かだがその兆しがみられている（例えば、コミュニケーションの増加、行動態度の敏捷化、勉学や将来に対する目標設定やモチベーションの高まり等）。

みるべき成果は卒後5年、10年と経たないとわからないが、おそらく彼らが歩む人生に少なからず何らかの好影響を与え続けていくことと思う。特に若く自我の成長著しいこの時期に海外に出たこと、現地の人々との直接交流や生活体験、日本にない壮大で美しい自然環境に接した感動、感激はいつまでも心に残り続け、困難にぶつかった時の大きなエネルギー源になるものと思う。とりわけ、自力で何かにチャレンジしたという経験は貴重であり、この達成感が今後の自信に繋がっていくものと期待される。いまのところ無形ではあるが得られた成果はきわめて大きいと確信する。

研修成果としては以下の項目が挙げられる。

①現地の人々との交流・生活体験（異文化体験、自然環境保全）

②園芸療法の臨床経験

③患者さんとのふれあい体験

④有意義な夏休み経験

2. 反省点

①あれもこれもと欲張り忙しい研修となってしまった（島国感覚）。

②研修時期を少し早めに設定すべきだった（園芸療法という視点を重視するならば、理想的には7月末、遅くとも8月末までに実施すべき）。

③経済的負担が大きい

3. 今後について

世界に発信できる人間性豊かな人材育成を謳う当学の教育理念を具体化する意味においても、この研修を当学の学事メニューに加え、次年度以降も継続する方向で検討したい。

将来的には、特定の施設か大学と提携を結び、1週間から10日程度の研修コースを作り、園芸療法分野の学問的発展を図りたい。また、研修期間と内容次第では単位習得の道筋も視野に入りたい。

・反省点について

1つ目の、欲張り研修となったことについて。訪問して改めて実感したことは、カナダという国は実に広大であった。今回、研修先に選んだカルガリーには地下鉄や鉄道などの公共交通機関はなく、移動手段のすべては専ら車であった。不慣れな上に言葉の壁がスケジュールを大きく左右することは容易である。このようなハンディがあることを考慮して、次回からは一日一プログラムを基本としたい。「日本人は何故そんなに忙しくするのか？、今回のスケジュールは殺人的だよ…」と、酷評されたことは肝に銘じておきたい。

2つ目は、園芸療法では、特に草花の生育過程のうち、とりわけ蕾から開花までが一番の効果期であるため、花の最盛期が過ぎた8月以後

に行っても無意味に近い。園芸療法としての研修ならば是非6月から7月末までに…という現地アドバイスもあった。他の学事計画とも関連するため、遅くとも8月末までに実施出来るよう検討してみたい。

3つ目は、この時期のカナダは観光ハイシーズンにあたる。旅費は高騰状態にあり、経済力の弱い学生にとってはかなりの負担となる。参加したいという潜在的ニーズは高いが、現実はかなり厳しいものがあり、費用負担が軽くなる9月を選んだというのが今回の理由である。参加できる学生にも、出来ない学生にも不公平感を感じさせないような支援体制が望まれるとこ

ろである。最後に、今回の研修に対し理事長より寸志を賜り、学生支援として活用させていただいた。参加者を代表してここに感謝の意を表し報告とする。

[資料]

- 1) 藤井恵子 海外特集 「VANCOUVER」 p.6-24
The GOLD 03 JCB 2006
- 2) 2005 VISITOR' S CHOICE Publications
- 3) Canada Sightseeing Navigator
<http://www.canada-travel.jp/>.